万年筆（まんねんひつ）の秘密基地（ひみつきち）

しくみ

第5回

キャップの謎に迫る！ ～キャップ編～

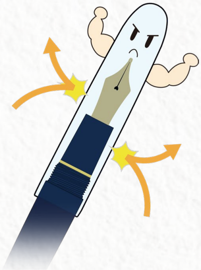
みなさん、こんにちは！『万年筆の秘密基地』です。
前回までは、2回にわたり先軸（首軸）について紹介しました。今回は、キャップについてお話しします。
では、行ってみましょう！

どうしてキャップをするの？

キャップは、万年筆にとって重要な部品のひとつです。
そもそもなぜ万年筆にキャップをする必要があるのか、
キャップの役割を紹介します。

ペン先の保護

万年筆にとってペン先は命。
キャップは、持ち運び時の衝撃など
からペン先を守る強い味方！



インクの漏れを防ぐ

キャップを閉めておかないと持ち運び時にインクが
漏れ、まわりを汚してしまう事もあります。しっかり
閉めていれば大丈夫！

インクの乾燥防止

乾燥は万年筆にとって大敵！その乾燥を防ぐためにも、
キャップをする必要があるのです。

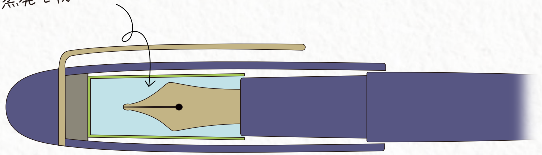
キャップは万年筆の品質を保ち、安心・快適に使い
続けるために欠かせないものです。では、そんな
キャップのしくみを少し見ていきましょう！

キャップの中身を覗いてみよう

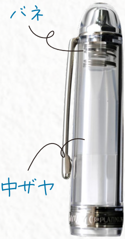
ペン先を乾燥から守れ！

万年筆は、ボールペンなどと比べると乾燥に弱い筆記具です。ペン先やペン芯に流れたインクは、空気に直接触れることで乾燥し固まります。その結果、インクの通り道が塞がれ、インクが出にくくなることがあります。

ペン先が密閉する空間を狭くすることで
インクの蒸発を防ぐ！



キャップをしていても、キャップの中でインクの水分が蒸発し、乾燥してしまいます。その乾燥をできるだけ抑えるために万年筆の多くは、キャップの中にさらに小さなキャップ（中ザヤ）を付けているのです。



中にある小さなキャップ（中ザヤ）が、首軸にガッチリはまってしまっていると、キャップを外す時に気圧が急低下してインクが吹き出ることがあります。#3776センチュリーではこれを解消するため、中ザヤの端面で密閉できる「スリップシール機構」を搭載しています。

詳しくは スリップシールのしくみ

どんなカタチをしているの？

万年筆のてっぺん

万年筆のてっぺんには、当社が「天冠」と呼んでいる部品があります。丸いものや平らなものもあり、このカタチが万年筆全体のデザインに影響します。

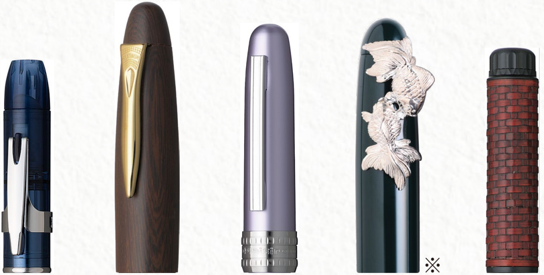
ブランドイメージや、万年筆の個性を出す目的でも使われることもあるので、ぜひ天冠にも注目してみてください！

キャップの顔、クリップ

個性が光る部品、クリップ

万年筆のクリップは、見ればどこのメーカーかわかるほど個性が感じられる部品のひとつです。胸ポケットやノートに挟むことはもちろん、万年筆が転がるのを防ぐ役割があります。

クリップは、万年筆を胸ポケットに差す時
ペン先が空を向く方向に付いています！

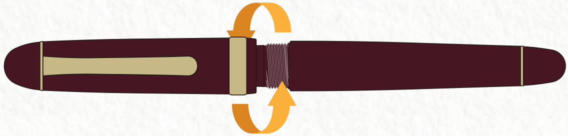

※

また、挟む機能はないですが、アクセサリーのように装飾された「転がり止め」がつく場合もあります。他にも、万年筆の質感などを感じてもらうため、あえてクリップを外す場合もあります。※画像提供：有限会社 中屋万年筆

どんなキャップがあるの？

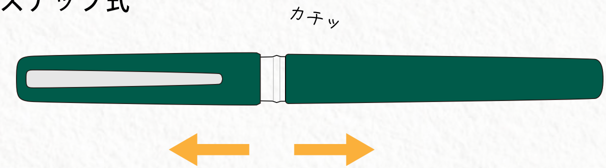
万年筆のキャップには、色々な種類の開け方があります。それぞれデザインや使い勝手などが異なります。今回は、代表的なキャップの種類を紹介します。

回転ネジ式



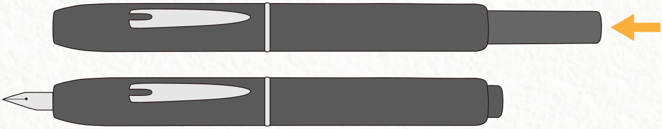
回転させてキャップを開閉するタイプ。この所作が、万年筆を書く時ならではの儀式と捉える方もいます。

スナップ式



片手でも簡単に開けられるタイプ。開閉の際にカチッと音が鳴るのが特徴。キャップの開閉が耳でわかります。

キャップなし（ノック式万年筆）



キャップがないタイプのノック式万年筆。ワンタッチで書き始められます。キャップがなくてもインクが乾燥しないよう、フタがついています。

これ以外にも、マグネットでキャップを固定するタイプなどもあります。

キャップのネジの秘密

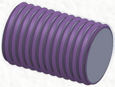
さっと取り出してさっと書く！

回転ネジ式キャップの万年筆。いざ筆記しようとした時、キャップの開け閉めが煩わしいですよね。そこで、なるべくスムーズにキャップが開けられるよう、「多条ネジ」が使われています。

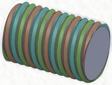
多条ネジってなあに？

多条ネジとは、ネジの道（条）がいくつもあるもののこと。この条を増やすと1回転あたりの進む距離を増やすことができます。#3776 センチュリーの場合は3条ネジ。1回転で通常のねじの3倍進むため、キャップの開閉がとってもスムーズ！

●普通のネジ（1条ネジ）



●3条ネジ



今回は、万年筆のキャップについて、どんな役割があるのか、種類も交えながら紹介しました。

次回は、胴の素材や歴史による変化など、胴について深堀りしていきます。お楽しみに！

PLATINUM
JAPAN 1919